

e-kids

ECECカフェ (保育・幼児教育を再考するコミュニティ)

■第1回「続・フレーベルってだれ？」 2014.5.22



第3遊具 (立方体)

先月号の「ECECカフェ」の続編です。前回好評だった荘司泰弘先生の講義の内容をコンパクトにみなさんにお伝えします。また、現在「ECEC カフェ」では、保育者を目指して就活中の学生さんを対象とした第2弾のカフェを企画中です。下記サイトで参加者を募集中ですので、是非アクセスしてください！

<http://ecec-cafe.jimdo.com/>

◆フレーベルってだれ？

フリードリヒ・フレーベルは、幼稚園（キンダーガルテン）の創始者、幼児教育の祖と言われたドイツの幼児教育者です（1782-1852）。

◆フレーベルの教育遊具「恩物」

フレーベルが考案した教育遊具のことを「恩物（神からのギフト）」と言い、第1遊具～第10遊具まで、球体、円柱体、立方体、直方体などさまざまな形があります。恩物は、大人が使い方を教えるものではなく、子どもが自由に遊びながら感性や探究心を養うものです。残念ながら、日本には一部の恩物しか普及せず、その教育的意義や使い方も正しく伝わりませんでした。私たちにも馴染みのある積み木（積み木の元は恩物）は、本来保育室ではなく、生命が宿る自然の中で遊ぶものというから驚きです。

◆フレーベルの人間教育

フレーベルの思想や教育遊具は、ナチスドイツの戦争に悪用されてしまっていますが、フレーベルは、教育こそが戦争や飢餓、社会の悪を取り除く方法だと考えます。彼は、子どもが本来もっている人間らしさを引き出し、伸長していくことの大切さを提唱します。「さあ、わたしたちの子どもらに生きようではないか！」というフレーベルの言葉は世界の幼稚園の標語として今日も生き続けています。

自然体験活動 デジタル・アート・キャンプ2013 (2014.6.14)

ー・アエルキャンプ場・ー

オタマジャクシやカエル、メダカにたくさん出会えるこの季節！アエルキャンプ場に出かけて田んぼ近くの道や池の近くをお散歩してきました。あっちでもこっちでも「うわー！」「いた！！」と大騒ぎの子どもたち。1人が見つけると皆が「どこどこ？」と集まってきます。足や手が出ているオタマジャクシ、しっぽが短くなり始めているオタマジャクシを見つけて、いつの間にか子どもたちから「カエルジャクシだ！」と新しい呼び方も出てきました。春に来たときは緑色だったカラスノエンドウが真っ黒に！！握ってみると…手の中ではじける感触が面白くて「おお！！」と驚く友だちの声につられて真似をする子どももいて、「！（ビックリ）」がたくさんさんの1日でした。（たきぐち）。



●ECECカフェの企画・運営を体験して～「学生としてできること」



ECECカフェ 運営者

このお話を聞いたときに自分自身、大学生生活を通して保育について学びたいが、どこに行けば学べるのかと悩んだことを思い出し、学生の中にも自分と同じように学びの場を求めている人達の力になれたらなという気持ちで参加しました。カフェでは、司会という立場を経験しましたが、ほとんどの人が初対面ということで緊張しました。全体が意見を出し合える場作りの難しさ、時間配分の大切さ等、普段の生活では感じる事ができないことを学びました（関西学院大学 教育学部／ふじた ゆういちろう）。